



最初にお読みください

# AT-1331-10/80 リリースノート

この度は、AT-1331-10/80 をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。  
このリリースノートは、付属のマニュアルに記載されていない内容や、ご使用前にご理解  
いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。  
最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

## 1 ファームウェアバージョン 4.2.0J

## 2 本バージョンで追加された項目

ファームウェアバージョン 4.1.3J から 4.2.0J へのバージョンアップにおいて、以下の機能が追加されました。

### 2.1 Telnet Access トラップ追加

 **参照** [AT-1331-10/80 取扱説明書] 68 ページ

 **参照** [AT-S51 オペレーションマニュアル] 100、254 ページ

Telnet 接続 / 切断時に発行される、Telnet Access トラップが追加されました。デフォルトは「1～4」で、SNMP マネージャー 1～4 のすべてに、Telnet Access トラップを送信するように設定されています。

#### メニューオプション

[Main Menu]->[System configuration]->[SNMP parameters]->[Trap parameters] に、Telnet Access トラップが追加されました。

#### コマンド

SET SNMP コマンドに、引数 TELNET ACCESS が追加されました。

### 2.2 トラップの有効 / 無効の切り替え

 **参照** [AT-S51 オペレーションマニュアル]

[2.4 システム設定] [3.4 システム設定コマンド]

SNMP 認証トラップおよびポートのリンクアップ / リンクダウトラップを生成する / しないを設定できるようになりました。デフォルトは、SNMP 認証トラップを生成しないように設定され、また、ポートのリンクアップ / ダウトラップを生成するように設定されています。

#### メニューオプション

[Main Menu] -> [System configuration] に、次のメニューオプションが追加されました。  
[SNMP parameters] -> [Authenticate Failure Trap] / [LinkUpDownTrap Enable Ports]

#### コマンド

次のコマンドが追加されました。

ENABLE SNMP [AUTHENTICATE\_TRAP] [LINKTRAP[={port-list;ALL}]]

DISABLE SNMP [AUTHENTICATE\_TRAP] [LINKTRAP[={port-list;ALL}]]

### 3 本バージョンで仕様変更された項目

ファームウェアバージョン 4.1.3J から 4.2.0J へのバージョンアップにおいて、以下の機能が仕様変更されました。

#### 3.1 ポートセキュリティについて

 **[AT-S51 オペレーションマニュアル] 105, 263 ページ**  
ポートセキュリティのスタティック MAC アドレスの自動登録機能で、登録できる MAC アドレスパターンは 1 ポートにつき 1 パターンだけでしたが、1 ポートあたり 32 パターンまで登録できるようになりました。

##### メニューオプション

本機能はメニューではサポートされていません。

[MAC Address Menu] -> [Source Address Learning Mode] の [Config MACfilter address per port] は使用できなくなりました。コマンドを使用してください。

##### コマンド

次のコマンドが変更されました。

```
SHOW SECURITY PORT={port-list;ALL}
```

※ポート番号を指定できるようになりました。

```
SET SECURITY PORT={port-list;ALL} [MACLIMIT=0..255] [MACFILTER=filter-address]
```

※以下の ADD SECURITY PORT コマンドと同様の動作となります。

次のコマンドが追加されました。

```
ADD SECURITY PORT={port-list;ALL} [MACFILTER=filter-address]
```

```
DELETE SECURITY PORT={port-list;ALL} [MACFILTER=filter-address;ALL]
```

※ MACFILTER=ALL で登録されている複数のアドレスを削除できます。

なお、MACFILTER で指定したアドレスが以前に入力したアドレスと重複する場合は、エラーメッセージを表示します。以前に入力したアドレスを削除してから、再度指定してください。

```
Manager% set security port=1 macfilter="00 90 99 ** ** **"

Info: Operation Successful

Manager% set security port=1 macfilter="00 90 99 10 ** **"

Error:          Parameter <MACFILTER>,      overlap "009099*****"

Manager% set security port=1 macfilter="00 90 ** ** **"

Error:          Parameter <MACFILTER>,      overlap "009099*****"
```

### 3.2 エージングタイムについて

 **「AT-S51 オペレーションマニュアル」 78, 223 ページ**  
エージングタイムとして設定できる最大値が、999（秒）から 382（秒）に変更になりました。  
ファームウェアバージョン 4.1.3J 以前で 382（秒）以上に設定していた場合は、ファームウェア  
のバージョンアップ後、自動的に 382（秒）に設定されます。

## 4 本バージョンで修正された項目

ファームウェアバージョン **4.1.3J** から **4.2.0J** へのバージョンアップにおいて、以下の項目  
が修正されました。

- 4.1 マルチプル VLAN モード時に追加したスタティック MAC アドレスを、コマンドライン  
インターフェースから削除 (DELETE FDB DESTADDRESS コマンド) した後で再起動  
すると、削除したスタティック MAC アドレスが戻ってしまうことがありましたが、  
これを修正しました。
- 4.2 ポートセキュリティの Secure モード動作時、メニューから新規 VLAN の作成、ポートの  
追加を行うと、追加したポートに登録されていた MAC アドレスだけでなく、その他の  
一部の MAC アドレスの所属ポートも変更されてしまうことがありましたが、これを  
修正しました。
- 4.3 メニュー画面から MAC アドレステーブル上の MAC アドレスの指定によるポートの検索  
(Get Port From MAC Address) を行った場合、ポートの所属 VLAN が正しく表示され  
ませんでしたが、これを修正しました。
- 4.4 同一 VLAN 内に 10Mbps と 100Mbps のポートが混在していて、かつ 10Mbps のポートが  
2 ポート以上ある場合、ブロードキャスト / マルチキャストの転送レートが、10Mbps の  
ポート速度に同期していましたが、HOL ブロッキング防止機能が動作するよう修正  
しました。
- 4.5 本製品宛 IP フィルターで、1 つのホストからの Telnet 接続のみを許可し、それ以外の  
ホストからの接続を拒否というエントリーを作成した場合、該当のホストから Telnet  
接続を行っている間は、他のホストからも接続が可能でしたが、これを修正しました。
- 4.6 DHCP クライアント機能動作時に、SNMP マネージャーから Renewal TimeValue(T1  
Timer) と Rebinding TimeValue(T2 Timer) を参照した場合、リース時間と同一の値が  
表示されていましたが、これを修正しました。
- 4.7 DHCP クライアント機能使用時、リース時間経過後に DHCP release メッセージが送信  
されず、IP アドレスを保持し続けていましたが、これを修正しました。
- 4.8 パケット通信中に、トランクグループ内で一番小さい番号のポートを抜き差しすると、  
リンクアップトラップが送出されないことがありましたが、これを修正しました。
- 4.9 トラップがトランクポート経由で送出されると、トランクグループ内の全ポートに  
同トラップが 1 個ずつ送信されていましたが、これを修正しました。
- 4.10 セキュリティモード時、未登録の MAC アドレスを持つ IGMP Query および Report  
メッセージがフラグディングされていましたが、これを修正しました。

- 4.11 TFTP のダウンロード・アップロード時に使用するソフトウェアのイメージファイル用パスワードと設定ファイル用パスワードに同じ文字列を設定すると、TFTP によるファイルの転送が出来ない場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 4.12 ポートセキュリティの対象となるポートに、スタティック MAC アドレスの自動登録機能を設定し、この機能によりスタティック MAC アドレスが登録された場合、SAVE コマンドで設定を保存した後で再起動すると、自動登録機能で登録されたスタティック MAC アドレスが消去されてしまう場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 4.13 本製品に設定する設置場所 (Location)、および管理者 (Contact) の情報として、設定できない 65 文字以上が入力可能でしたが、入力を受け付けないように修正しました。
- 4.14 自動学習により MAC アドレステーブルに登録された MAC アドレスと同一の MAC アドレスを、受信ポートとは異なるポートにスタティック MAC アドレスとして登録できない場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 4.15 ポートセキュリティの Secure モード設定時、セキュリティ対象外のポートに登録されているスタティック MAC アドレスが削除されていましたが、これを修正しました。
- 4.16 マルチプル VLAN モード時に、すでに学習済みの MAC アドレスをスタティック MAC アドレスとして登録しても、エイジング機能により自動的に消去されてしまう場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 4.17 ICMP Redirect メッセージの受信により、本製品宛の通信ができなくなることがありますが、これを修正しました。
- 4.18 VLAN を新規に作成した後に、SHOW CONFIG コマンドで設定内容を確認した場合、作成した VLAN の VLANID が省略されることがありますが、これを修正しました。
- 4.19 IGMP スヌーピング有効時に、本製品に存在しない VLAN ID を持つ IGMP Query メッセージを受信すると、そのグループが MAC アドレステーブルに登録されていましたが、これを修正しました。
- 4.20 RRP スヌーピング設定時、マスタールーターとスレーブの切り替えを検知し、登録されていた MAC アドレステーブルを消去した後、通信のタイミングによっては、切り替え前のマスターからのパケットを受信して MAC アドレスの登録を行ってしまうため、新しいマスターに正しく切り替わらないことがありますが、これを修正しました。
- 4.21 BPDU 内の MessageAge が "0x001a" ずつ増加するのを、"0x0100" (1 秒) ずつ増加するように修正しました。
- 4.22 SysUpTime (起動時から現在までの稼働時間) に、1 ヶ月につき約 1 日の誤差が発生していましたが、月差約 120 秒に改善されました。
- 4.23 ポートランキング接続時、トランクグループ 2 (ポート 9 ~ 16) に属するポートのリンクアップ、ダウンを繰り返すと、通信速度が落ちることがありますが、これを修正しました。

- 4.24 マルチプル VLAN モード時、クライアント VLAN に属するポートから、本製品と同じ MAC アドレスを送信元 MAC アドレスとするパケットを受信すると、本製品の MAC アドレスがエイジング機能により消去されてしまい、本製品宛の通信が不可能になってしまうことがありましたが、これを修正しました。
- 4.25 マルチプル VLAN モードで連続稼働時間が 497 日を超えると、MAC アドレスが登録できなくなり、本製品宛通信ができなくなることがありましたが、これを修正しました。
- 4.26 ARP 解決後にキューイングされていた Trap メッセージの 2 件目以降を送出しないことがありましたが、これを修正しました。
- 4.27 HELP SET SYSTEM コマンドで表示される AGINGTIMER の指定範囲が 999 秒となっていました。これを修正しました。
- 4.28 MAC アドレスが新規に学習されるパケットや内部スイッチチップをまたぐようなパケットを大量に受信した場合、正常に送信されないことがありましたが、これを修正しました。

## 5 本バージョンでの制限事項

---

ファームウェアバージョン 4.2.0J では、以下の制限事項があります。

### 5.1 DHCP クライアント機能について

---

- DHCP サーバーから取得した IP アドレス以外の IP パラメーター（サブネットマスク、ゲートウェイアドレス、DNS サーバーアドレス、ドメイン名）が設定ファイルに反映されず（IP アドレスは反映されません）。
- IP アドレス以外の IP パラメーター（サブネットマスク、ゲートウェイアドレス、DNS サーバーアドレス、ドメイン名）がリース時間経過後に解放されません（IP アドレスは解放されます）。
- DHCP クライアント機能使用時に、DHCP サーバーがネットワークから切り離されているなどして応答がないと、リース時間経過後に DHCP release メッセージが送信されず、IP パラメーターが解放されません。また、この状態で本製品を再起動した場合、DHCP サーバーから IP アドレスが取得できないと、ARP パケットに不正な IP アドレスをセットして送信します。

---

## 5.2 ポートセキュリティについて

- セキュリティーモード時、未登録のMACアドレスを持つパケットを受信し続けていると、Pingなどの本製品宛の通信が不安定になることがあります。
- スタティックMACアドレスは、通常は学習するMACアドレスの対象としてカウントされませんが、以下の場合にはカウントが行われ、実際に学習されているMACアドレス数とのずれが発生します。
  - ・ セキュリティーモードがLimited Mode またはDynamic Limited Mode のとき、すでに登録されているMACアドレスをスタティックMACアドレスとして登録した場合（→MACアドレス登録数は増加します。）
  - ・ セキュリティーモードがLimited Mode のとき、スタティックMACアドレスとして登録されているアドレスを削除した場合（→MACアドレス登録数は減少します。）

---

## 5.3 ログについて

ポートのリンクアップ時のOptical receive OK ログが2回発行されることがあります。

---

## 5.4 VLANについて

マルチプルVLANモード時に、Uplinkポート（ポート25・27）に対してINACTIVATE MODULE/ACTIVATE MODULE コマンドを実行した場合、実際のモジュールスロット抜き差しに関わらず、本製品宛の通信が不可能になってしまうことがあります。SET PORT VLAN PVID コマンドでVLANへの再割当を行うことで、復旧します。

---

## 6 バージョン 4.1.2J で追加された項目

ファームウェアバージョン4.1.1Jから4.1.2Jへのバージョンアップにおいて、以下の項目が追加されました。

---

### 6.1 AT-13A7/AT-13A6/AT-13A5 について

本バージョンより、AT-13A7/AT-13A6/AT-13A5がサポートになりました。

バージョン4.1.1J以下のファームウェアでは、AT-13A7/AT-13A6/AT-13A5はご使用になれません。

---

### 6.2 SNMP プライベートMIBについて

本バージョンより、SNMPプライベートMIBのFstswitchMIB内fstswitchMcSpecificPC-Entryの配下に以下のMIBオブジェクトが追加されました。

- fstswitchMcPCTsStatInCenter
- fstswitchMcPCTsStatInLinkPartner

---

## 7 未サポート機能

以下の項目は付属の取扱説明書、またはオペレーションマニュアルに記述がありますが、本製品ではサポート対象外となっていますので、あらかじめご了承ください。

- フローコントロール機能

## 8 マニュアルの補足

---

付属の CD-ROM に収録されている「AT-S51 オペレーションマニュアル」の補足事項です。

### 8.1 ループバックテストの結果表示について

 **参照**「AT-S51 オペレーションマニュアル」 50, 203 ページ  
ループバックテスト実行後に表示されるメッセージに、以下のメッセージを追加します。

**Loopback test error : timeout packet received.**

**Transmit set xx packets, receive xx packet**

宅側機器 (AT-1311 など) からタイムアウトによるテスト終了パケットを受信したことを示します。2 行目の xx は、パケット送信回数の設定値と実際に折り返されたパケット数を示します。

障害箇所：

100Mbps 光ポート、光ケーブル、宅側機器 (AT-1311 など) のいずれかに障害が発生しています。

### 8.2 モジュール情報の表示について

 **参照**「AT-S51 オペレーションマニュアル」 46,197 ページ  
メニュー画面の「Module Information Menu」表示および SHOW MODULE コマンドの表示で保守パケット取得要求の送信 / 停止を確認できるようになりました。

- 「Module Information Menu」の表示  
「Module Information Menu」画面に次の項目が追加されます。  
TTC(TS-1000)： 保守パケット取得要求の送信 / 停止を ON/OFF で表示します。
- SHOW MODULE コマンドの表示  
全モジュールの一覧を表示した場合は、以下の情報の表示が追加されます。  
TTC： 保守パケット取得要求の送信 / 停止を ON/OFF で表示します。

特定のポートに関する詳細なモジュール情報を表示した場合は、以下の情報の表示が追加されます。

TTC(TS-1000)： 保守パケット取得要求の送信 / 停止を ON/OFF で表示します。

### 8.3 SET SNMP コマンドについて

 **参照**「AT-1331-10/80 取扱説明書」 254 ページ  
オンラインヘルプの SET SNMP コマンドの書式が変更されましたので、あわせてマニュアルの書式を以下の通り訂正し、お詫びいたします。

 **修正**： SET SNMP [ トラップ名={1..4|ALL}]

 **修正**： SET SNMP [ トラップ名={1..4|ALL|0}]

0 (ゼロ) を指定すると、該当のトラップが送信されなくなります。

## 8.4 マルチプル VLAN について

 **「AT-S51 オペレーションマニュアル」 159 ページ**

- マルチプル VLAN 使用時の MAC アドレス登録数は、2047 個になります。
- マルチプル VLAN 使用時は、エージングタイムで MAC アドレステーブルが必ず更新されます。